

明治三十八年五月廿八日

明治三十八年五月廿八日軍艦敷島戦闘詳報

参謀

副官

軍艦敷島

三十八年五月

0479

昭和八年五月廿八日 日清汽船
 一 汽力 汽機 回轉數 及 速力
 日清汽船株式會社 汽機部 詳報

時刻	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	
P.M.	汽力	汽力	回轉數	回轉數	汽力	汽力	回轉數	回轉數	汽力	汽力	回轉數	回轉數	汽力	汽力	回轉數	回轉數	汽力	汽力	
0	165	160	155	161	159	155													
1	145	140	180	152	148	180													
2	143	140	180	150	147	180													
3	145	140	200	155	151	200													
4	255	180	180	145	142	180													
5	160	185	210	160	187	210													
6	145	140	150	155	152	150													
7	160	155	200	162	159	200													

汽機部 詳報
 汽力 汽機 回轉數 及 速力

汽機部 詳報
 汽力 汽機 回轉數 及 速力

0480

8	160	155	84	165	161	54	七味粉 大ナル
9	165	160	54	170	167	54	才味粉 大ナル
10	155	151	166	145	142	166	
11	155	159	166	147	143	166	
12	162	157	166	156	153	166	
A.M.	157	152	166	153	150	166	大ナル
1	157	152	166	152	148	166	
2	152	149	166	150	147	166	
3	165	160	166	160	156	166	
4	160	155	166	160	157	165	
5	165	160	180	155	152	180	
6	145	140	84	148	144	84	
7	155	150	166	140	137	166	

0481

四 兵員ノ工績

機械洗滌及補助機械共些ノ故障ナリ兵員應急手物ヲ要スル等
ノ場合ナカリシヲ以テ特ニ即速ニベキ事績ナキモ航走ニ昼夜代リ真ノ能員
直着ヲハ直配置ニ温度百廿度内外室内ニ存リ金方ノ五分ノ三以テ運
轉ヲ續行シ各款良態ニ兵員疲勞ノ度ノ障ナリト云々素ノ修養ト各
員一致奮勵ノ工果ナリト認ム

五 戦闘ヨリ生カシ主機洗滌ノ再機及艦内各款ノ生カシ状況

本艦機周ニ廿七年五月遭難后急遽修理ヲ結了シ金方回轉二百拾
對二百回轉迄試運轉ヲ施行シテノ故ニ過時機ニテカハ可成其以
上回轉ヲ避ルニテ安全ヲ認メテ此ノ戰鬥於テ二百拾回轉ヲ要セシ
ト一回ニ其比ニ有回轉最大回轉トセリ各款ノ動作最モ良好ナリ
戰鬥中始終波浪瀟瀟ノ傾斜拾度乃至三拾度達シ機械可成運轉

アリ同轉角カ其其度ヲ増シ多ク注意ヲ專セテ幸ニ故障ナカリシ
済難濟カノ果持頭シ良態猶ホ録活ヲ示シタリ
其日戰鬪開始ノ最午後一時而絲羅洋火ヲナセシメテ午後七時廿分迄持
續セテ羅洋火又ナリ其後規定通ル時間一圓洋火ヲ施行シ得ル
水面計三個破損モ外出来事無し

補助橋樑ニシテ良態ナリシ

六 戰闘中ノ實験ニ得來改良ヲ要スベキ点ハ
其一事右管柱位置及附近層鉛設置ニ關シテ
右舷樑室明右舷樑室ト前羅室明右舷樑室明上層羅室明左右舷
室明及前羅室明各一條ノ左右舷室明下層羅室明ノ鎖死ハ
各舷相互通長短ハ遲滞シ不便點ナリ右舷樑室明ノ首長右舷樑

9	183	148	175	152	148	170	
10	163	158	170	149	143	170	野園城の園詩 九條公家 手紙
11	168	160	180	150	147	180	於時十五分野園城下
12	165	160	164	170	167	164	

備考原連百六拾六回轉 (匣力拾五匣) トル

二 破損及流行の應急修理手帳

最新煙突右方上部建用一個命中以外筒に微傷を及ぼし用障

害ヲ集メテ

室... 取后西離室... 方... 櫛室... 單... 離... 通... 得... 櫛
二條、増設ヲ要ス

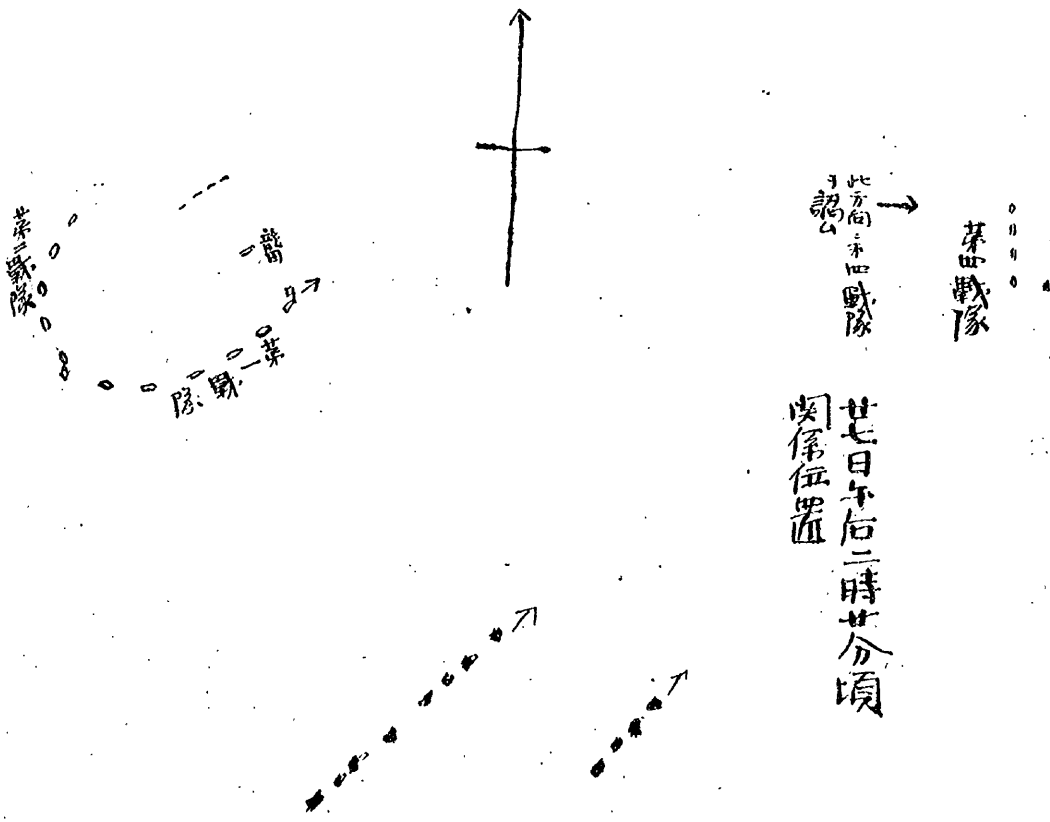
現傳話... 櫛室... 在... 噴... 櫛... 御... 茂... 留... 櫛... 通... 延... 滞... 生... 水... 池... 公

其二 駢水装置増設

浸水排除装置... 不完... 主... 疎... 櫛室... 后... 部... 各... 区... 劃... 河... 水... 小... 形... 堰... 戶... 余... 之... 櫛... 室... 落... 文... 前... 故

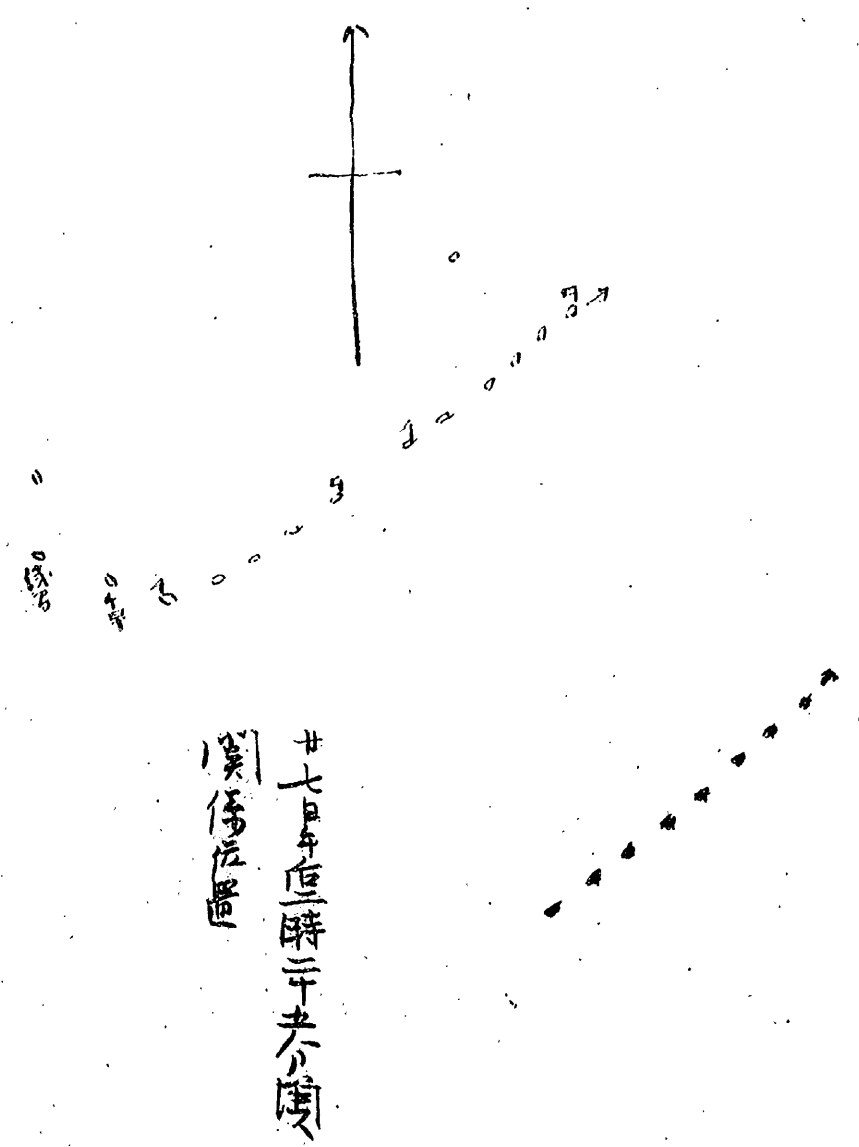
浸水... 脚... 筒... 吸... 入... 管... 通... 入... 主... 身... 量... 極... 薄... 弱... 少... 量... 河... 水... 排... 除... 止... 了... 到... 底... 是... 浸... 水... 排... 棄... 足... 不... 依... 主... 送... 水... 櫛... 室... 此

等各... 区... 劃... 浸... 水... 排... 棄... 得... 櫛... 室... 疎... 水... 管... 前... 后... 延... 長... 以... 余... 各... 二... 個... 并... 増... 設... 要... ス



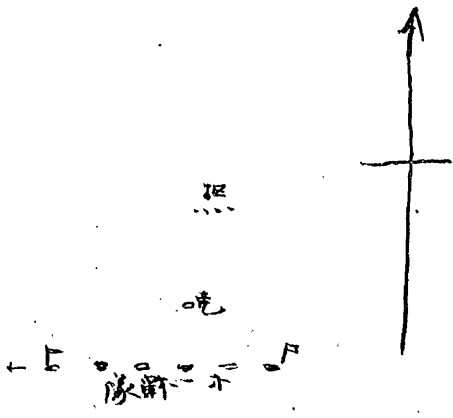
此方
向
調
査
第七日午後二時廿分頃
関係位置

0488



廿七日午匠時三十分頃
漢儀位圖

0489



隊行才
→ → →

世七日午三時世分頃
安係位置

敵船隊障孔及集敷
針路筆合不既

0490



0491



立派

立派

立派

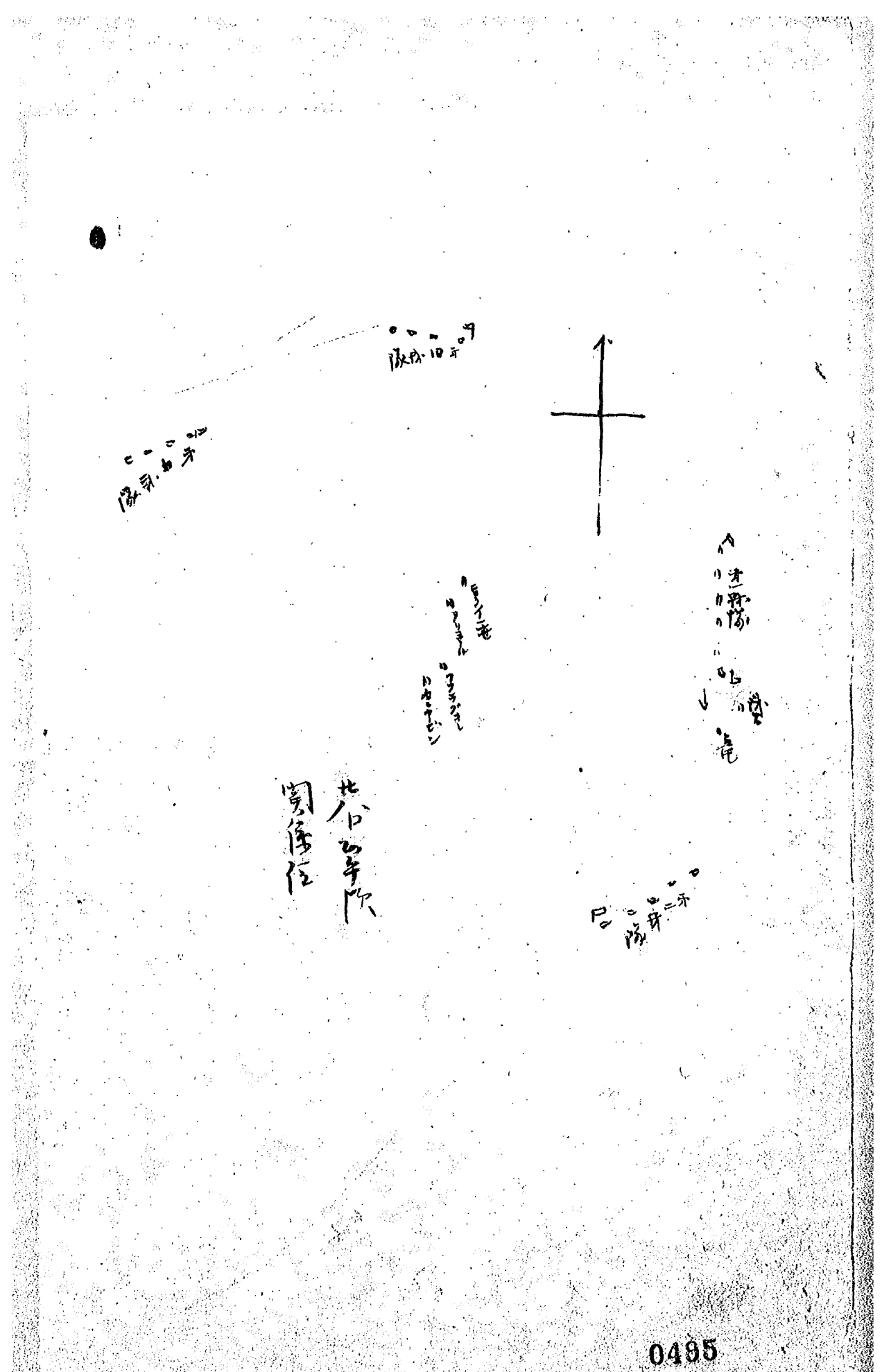
立派
立派
立派

0492

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>



北ノ島

西島

東島

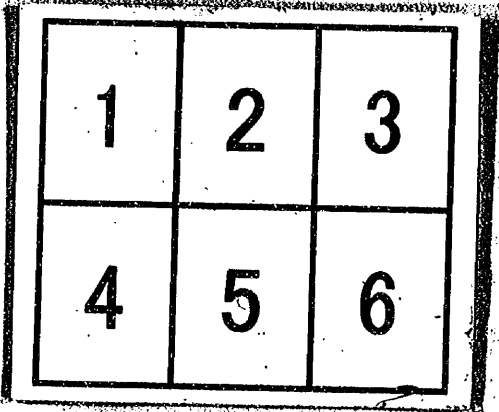
南島

北ノ島

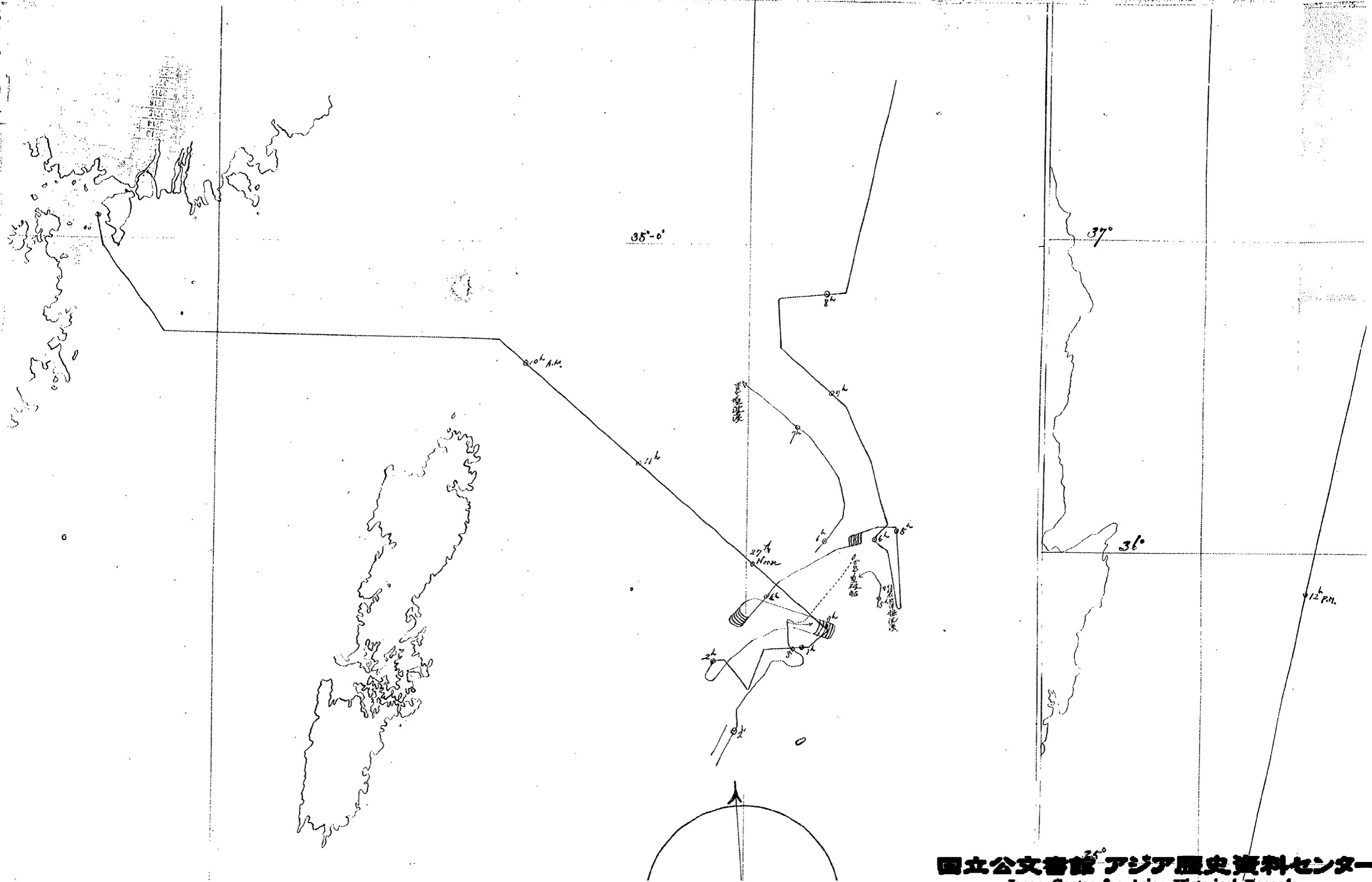
P.O. 島

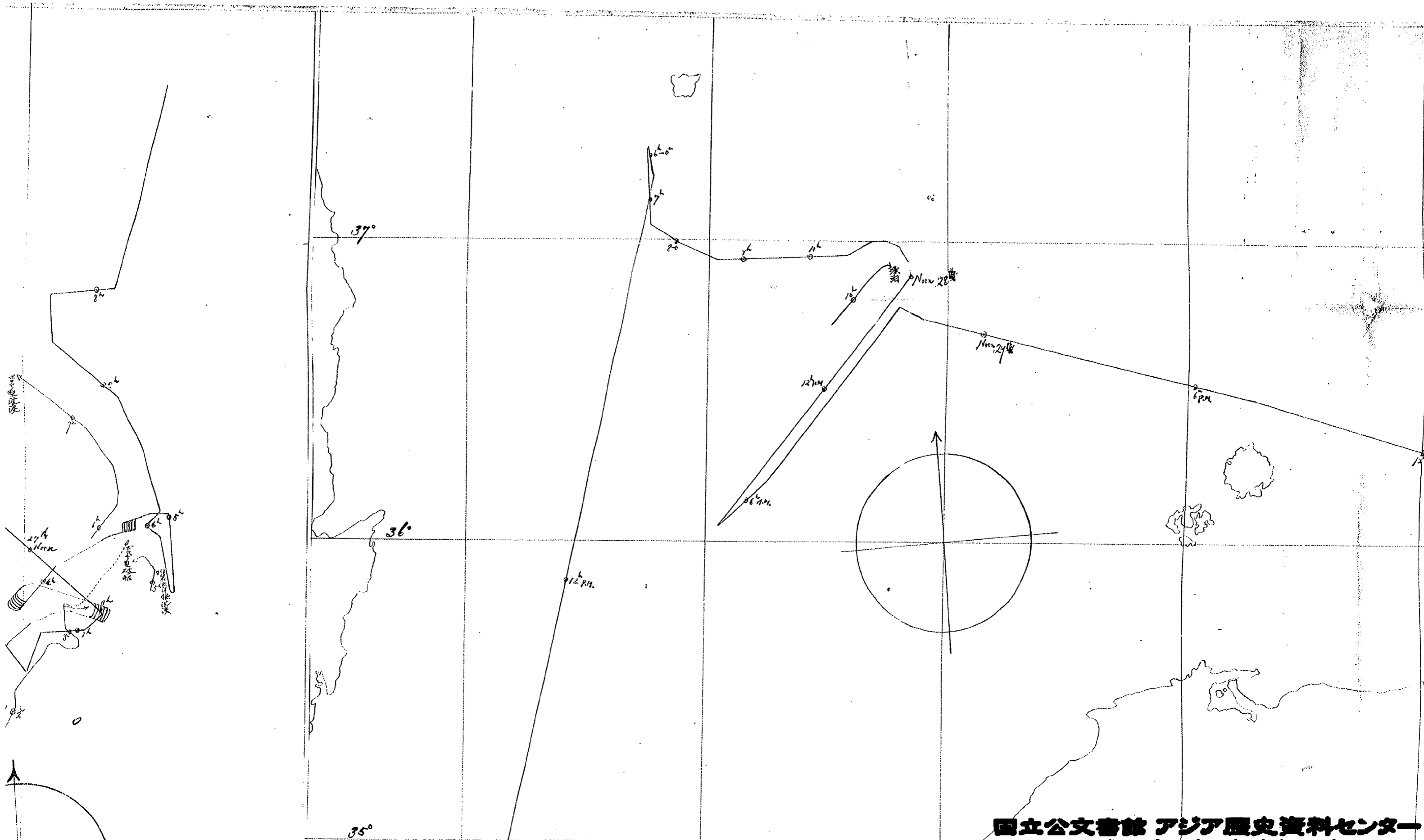
0485

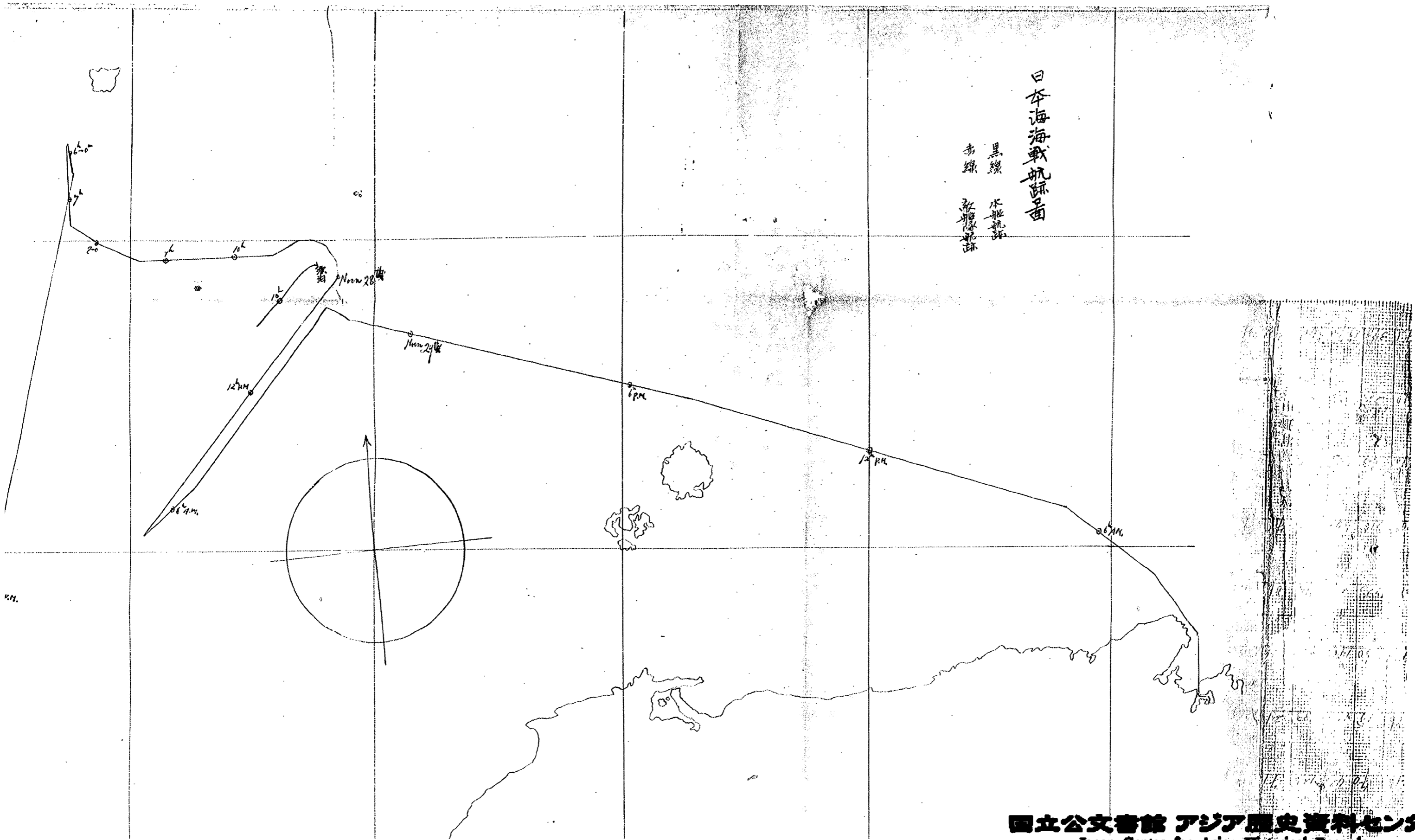
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0496
0497
0498
0499
0500
0501

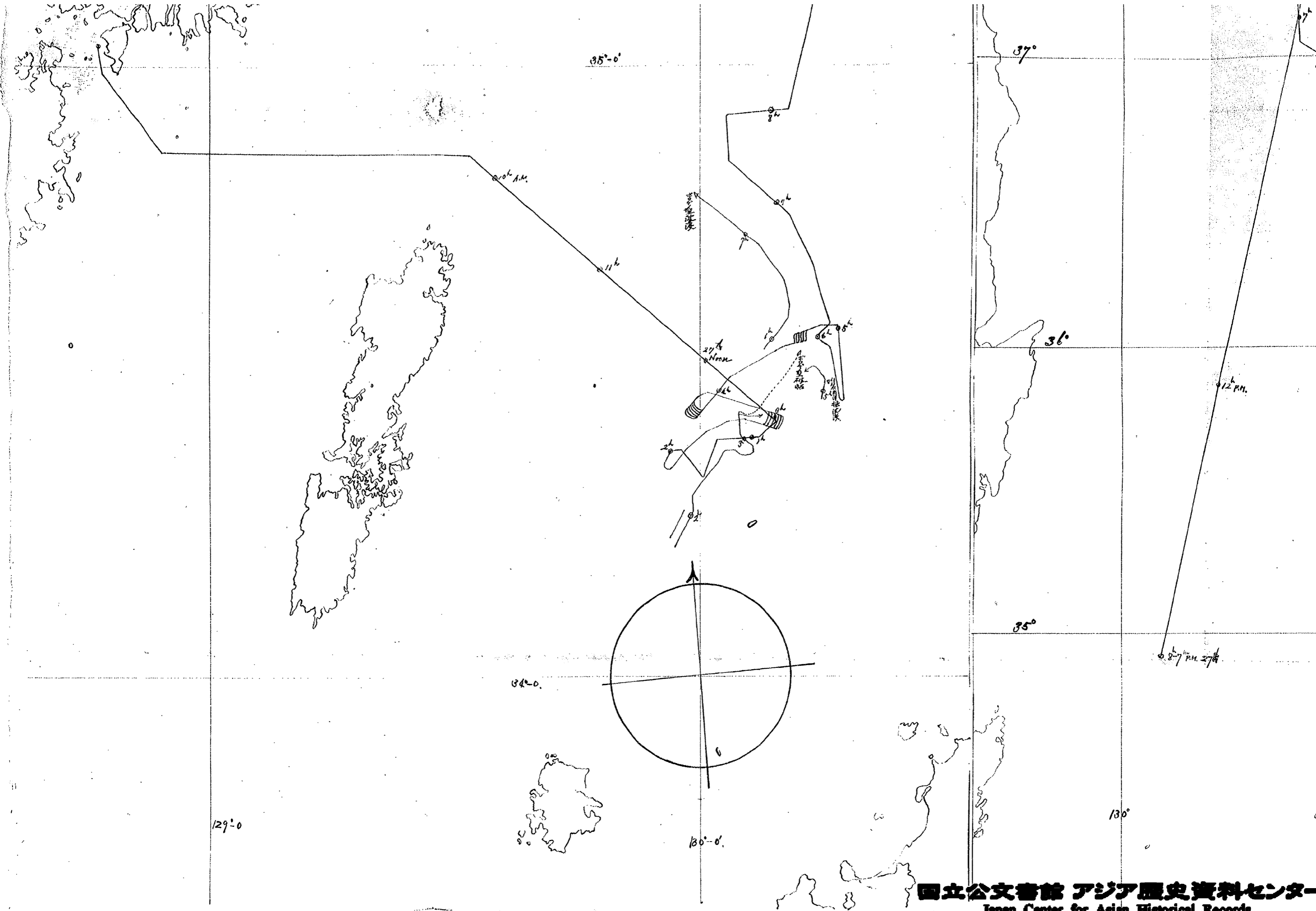


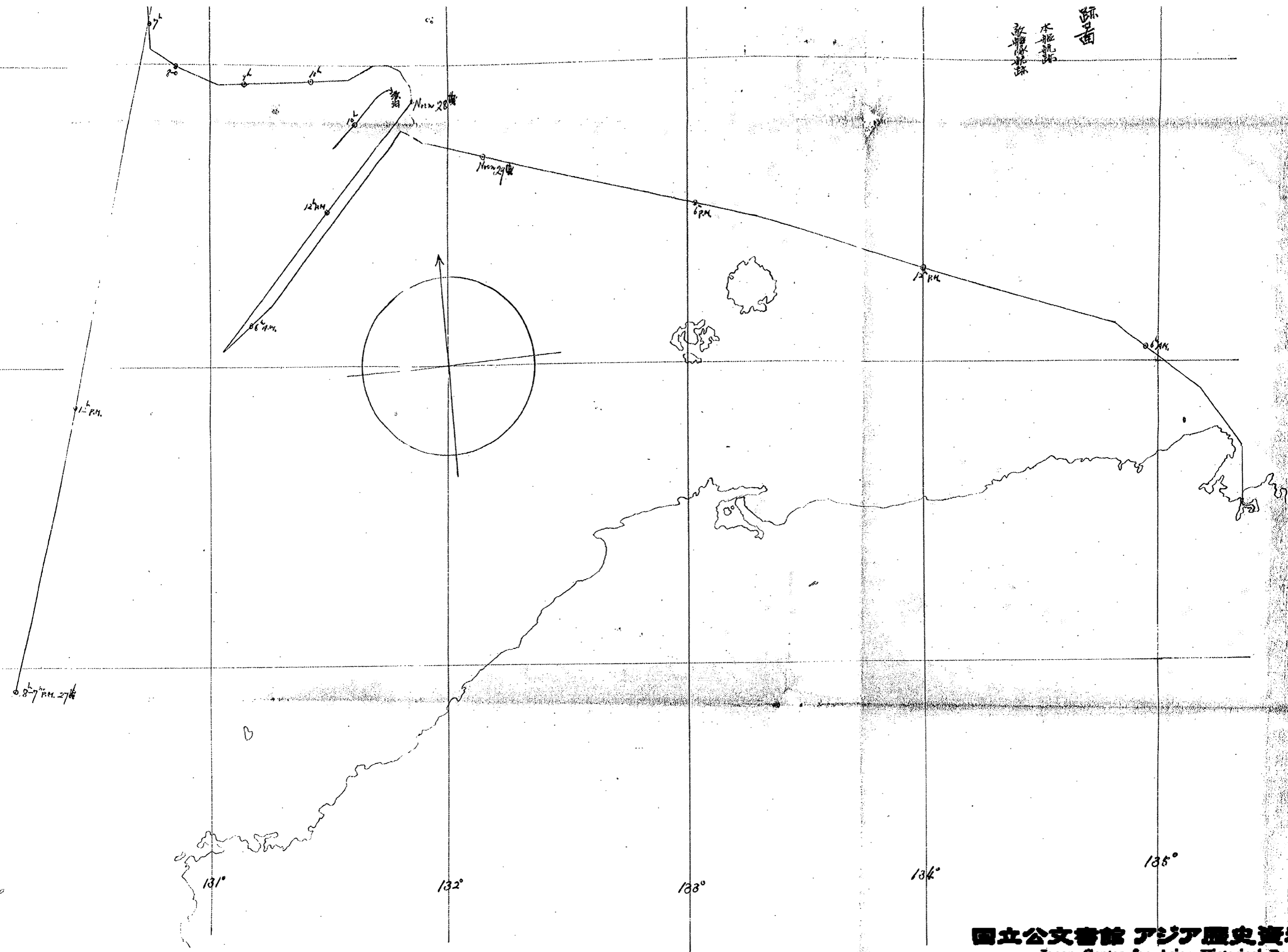




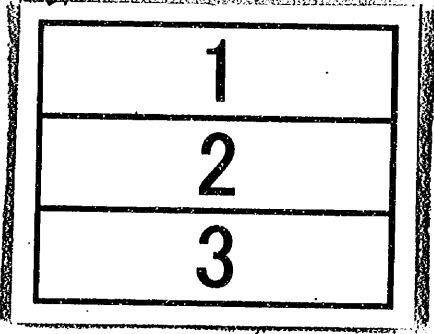
日本海海戦航跡圖

黒線 本艦航跡
赤線 敵艦航跡

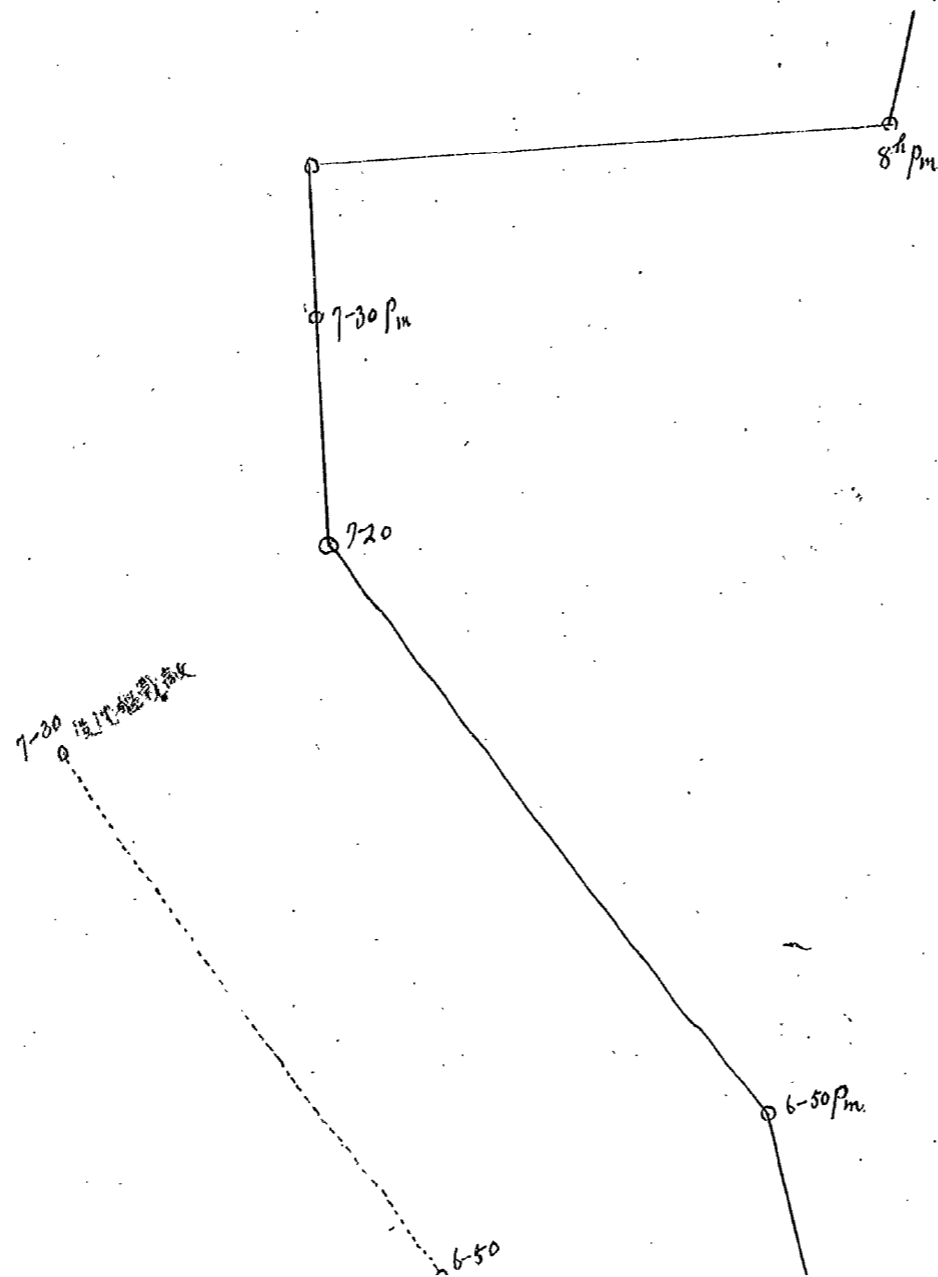




分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

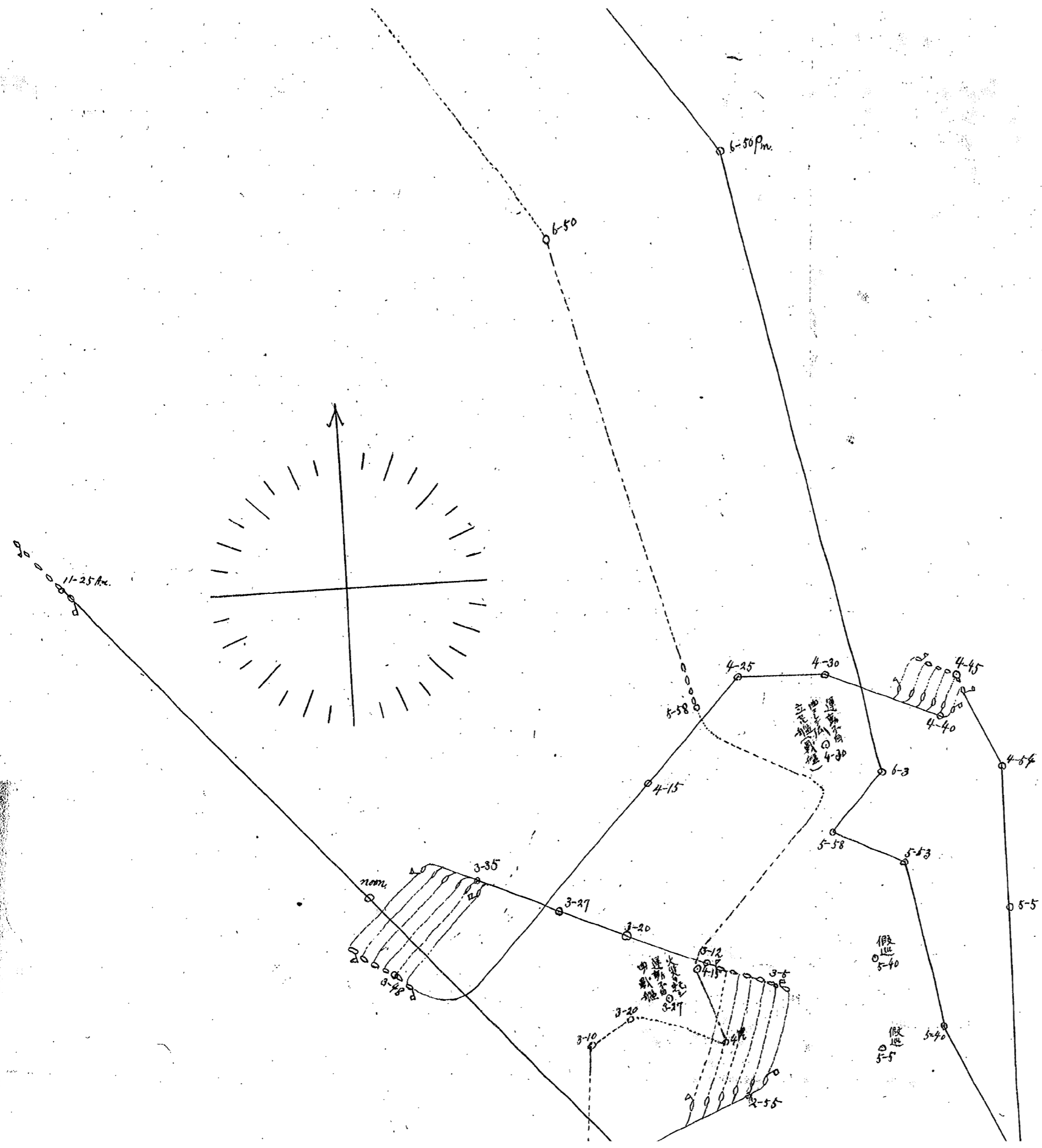
0502
0503
0504

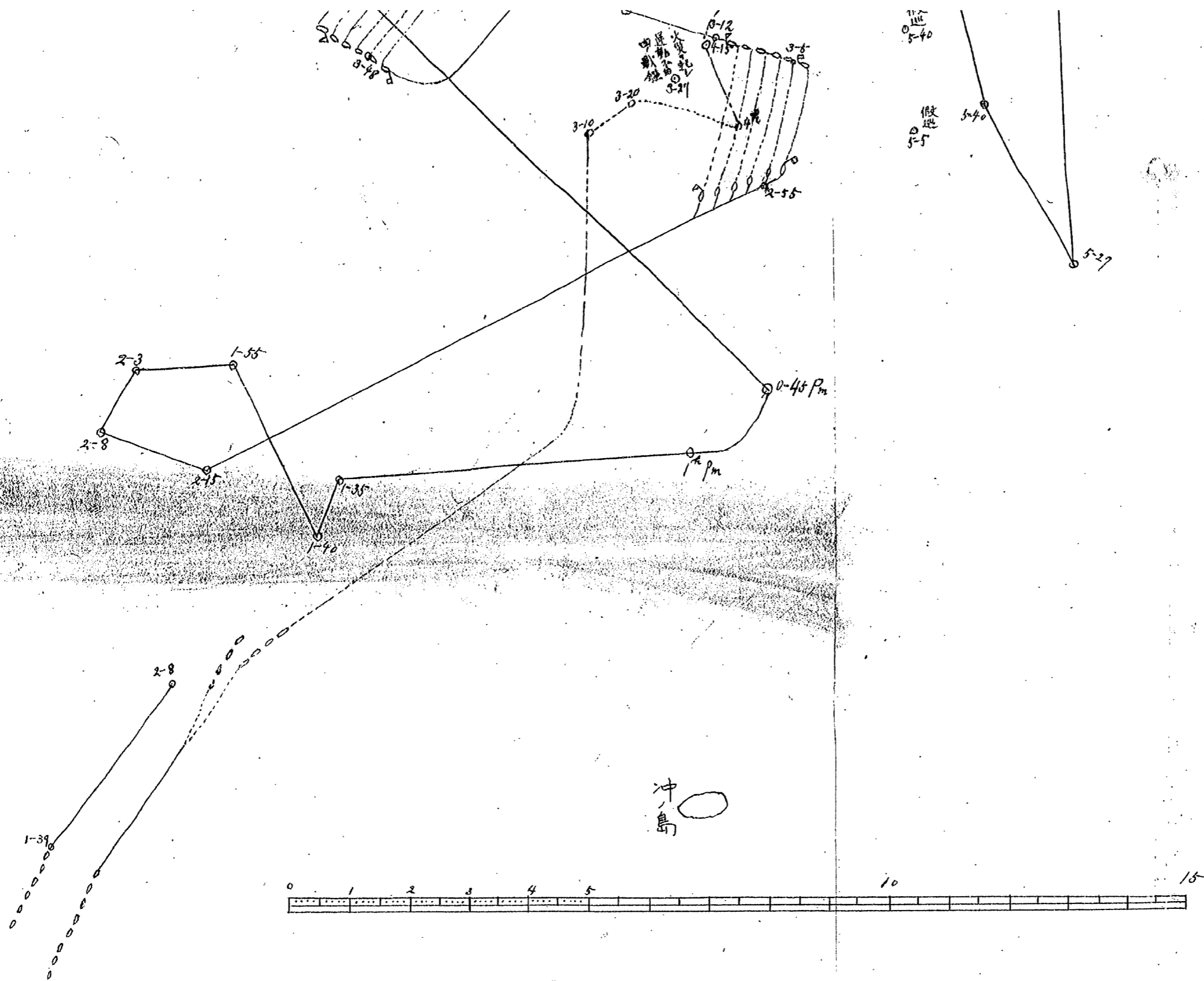


明治三十八年五月二十七日
日本海々戦圖

一、朱書、本艦射撃目標と敵艦隊
二、午後三時十分頃、主リ敵艦隊陣
三、午後四時三十分、孤立敵艦隊對
四、午後五時四十分、孤立敵艦隊對

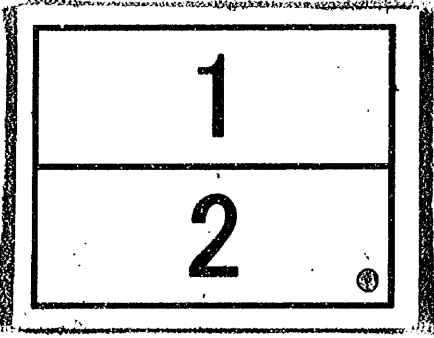
艦射撃目標として敵艦船中方位確測せしむる事
 十分頃至り敵艦隊陣形乱れ隊形が不揃い其航跡詳かからず
 三十分孤立敵艦隊射撃水雷突射
 四十分孤立敵艦隊射撃水雷突射暫時にて同艦沈没す





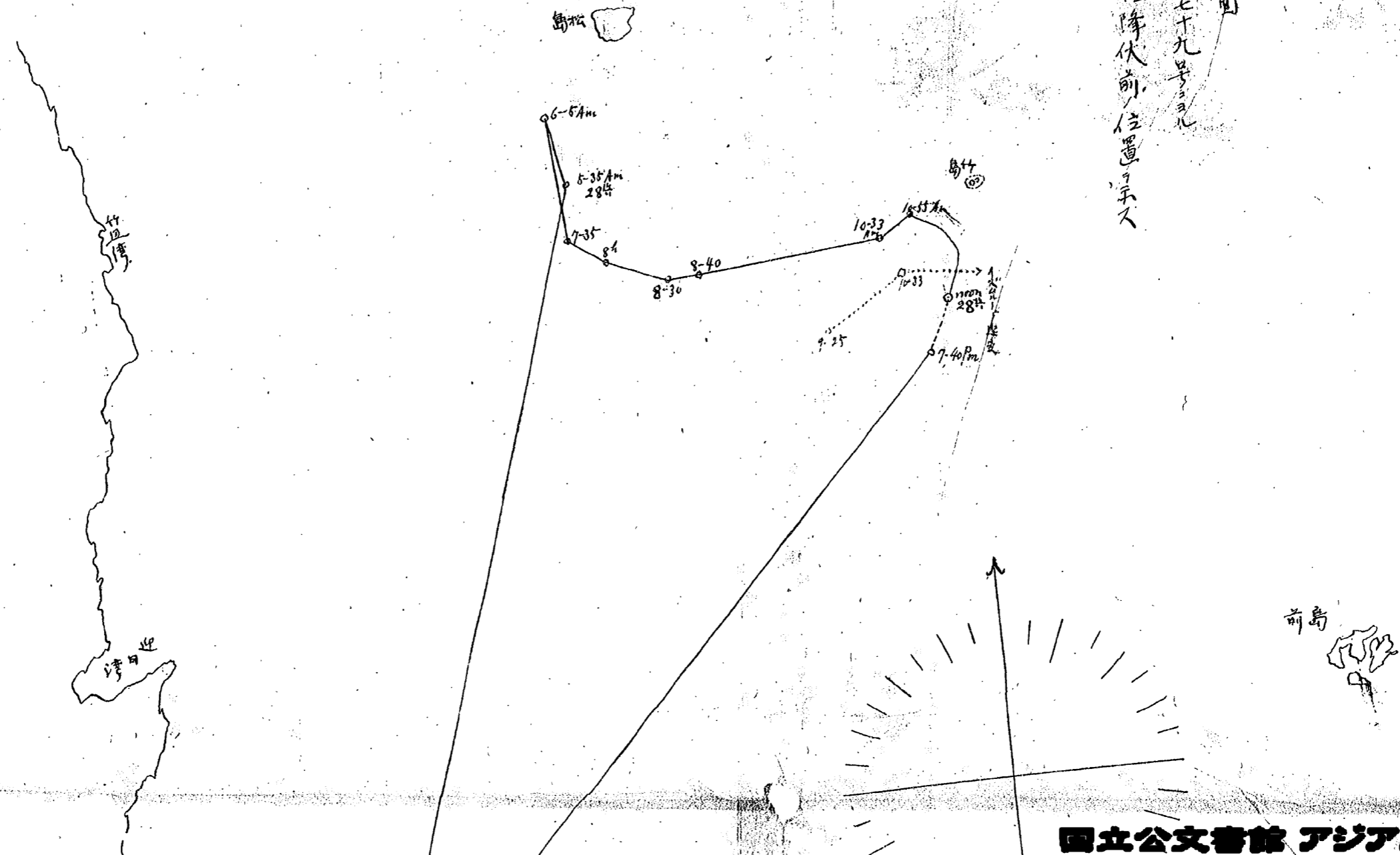
5746

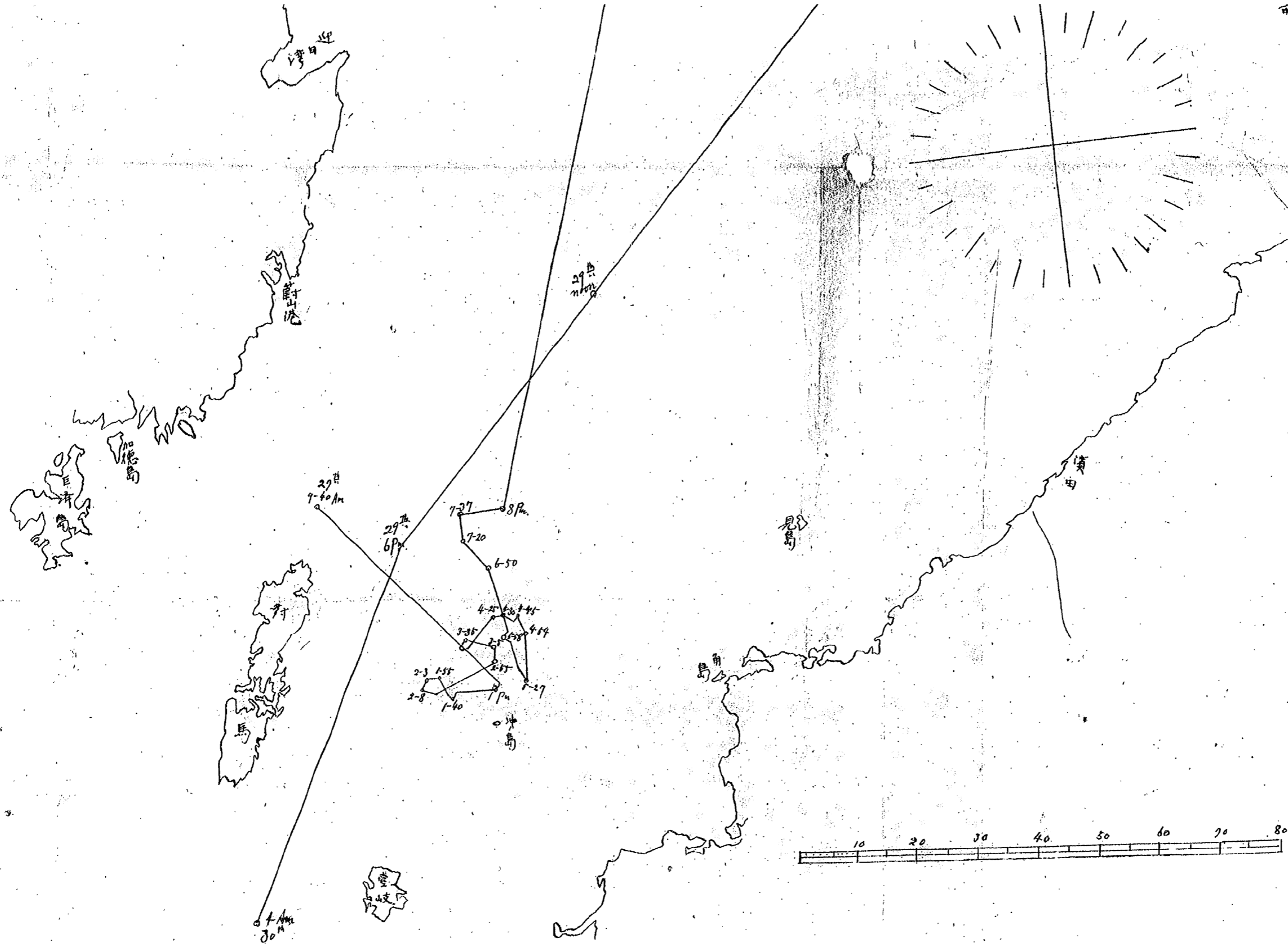
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0505
0506

明治三十八年五月
日本海海戦航跡圖
海軍海軍第七十九号ヨール
一朱書、二十九日敵艦降伏前位置ヲ示ス





戰鬥に因り生シタル欠員補充ノ概況

官職	戦死	負傷	計
少佐	1	1	2
大尉	1	1	2
少尉	1	1	2
兵曹長	1	1	2
一等兵曹	1	1	2
二等兵曹	1	1	2
三等兵曹	1	1	2
一等水兵	1	1	2
二等水兵	1	1	2
三等水兵	1	1	2

補充ノ概況

水曹長 1名 大尉 1名 少尉 1名 兵曹長 1名 一等兵曹 1名 二等兵曹 1名 三等兵曹 1名 一等水兵 1名 二等水兵 1名 三等水兵 1名 計 10名 補充ノ概況

（水曹長）
 原隊長 1名 大尉 1名 少尉 1名 兵曹長 1名 一等兵曹 1名 二等兵曹 1名 三等兵曹 1名 一等水兵 1名 二等水兵 1名 三等水兵 1名 計 10名 補充ノ概況

（大尉）
 原中尉 1名 大尉 1名 補充ノ概況

（少尉）
 原少尉 1名 少尉 1名 補充ノ概況

（兵曹長）
 原兵曹長 1名 兵曹長 1名 補充ノ概況

（一等兵曹）
 原一等兵曹 1名 一等兵曹 1名 補充ノ概況

（二等兵曹）
 原二等兵曹 1名 二等兵曹 1名 補充ノ概況

（三等兵曹）
 原三等兵曹 1名 三等兵曹 1名 補充ノ概況

（一等水兵）
 原一等水兵 1名 一等水兵 1名 補充ノ概況

（二等水兵）
 原二等水兵 1名 二等水兵 1名 補充ノ概況

（三等水兵）
 原三等水兵 1名 三等水兵 1名 補充ノ概況

0507

十、兵器及重丸需用消耗
(本項の附録表ニ表ス)

0509

0510

需品、消耗
表、了

0509

0510

在軍及重工業
消耗品
水頭、附録、採
査、取

士 艦内各員功績

艦内各員昨秋以来毎敵艦隊東航ヲ念トシ心ニ其數ヲ期幾月教育練習ニ未ルヤ海戰機ヲ待テツアリシ以テ真戰鬥臨々一同嗜々トシ各自部署就靜肅沈着シ熱心事ヲ其奉止働作盛ニ平素演習優ル歎テシテ而シテ敵艦兩舷艦壁破レ砲碎ケ死傷相踵ク慘憺ノ裡ニ處テ然ラシテ奈トス各其本令守リ其職ヲ尽シ終始一貫本職ノ意ノ如クシテ上下相保テ艦艇攻防ノ全勢力ヲ遺憾ナク發揮シ得タル各員切績特偉大ニモテリシヲ認ムルナリ

艦 庫

0512

0513

敵艦隊東航ヲ念トシテ心ニ其數ヲ
 算シ海軍機ヲ待テアリシ以テ其戰鬥
 小著就キ靜肅沈着ニ其熱心事ヲ其舉
 動ヲ歎テシム而シテ敵艦兩隻艦破ト見
 ハレシ處ニテ平然トシテ紊レズ各其本分ヲ守リ
 意ノ如クニ上下相保テ艦艇攻防ノ
 得タル各員ノ切績特偉ト大ニモテリシヲ認

0513

0512

内倉功績

其八日 本海之狀申
部 收 記 事

一 倍至急矣、今下レ其、其、三、号、三、西、ハ、神
一三三四五、六、七、八、九、廿、四、廿、五、十二、番、ハ、埋、入、中、ナリ
了、十五、号、至、二十、番、矣、久、キ、リ
廻 廊

其 汎
不 用

械 試 運 轉、行、ノ、良、好

0516

0515



六〇二 右機全進

上甲板積置十丸以詰、其度一四五、右四噸、度庫積六五噸、中

下甲板移殘余約四噸、海中投棄せり

六〇三 中击室十出並段汽

六〇四 右機全進回轉七〇

六〇五 中击室十出並段汽全用

六〇七 右機全進

六〇九 右機全進

六一〇 右機全進回轉七〇

六一二 両舷機中出並、收部油五、同注入

七〇〇 戦闘、戦闘汽圧力二五、磅

汽室各區風機(以下草送風機)ノ緩転ス

七〇八 回轉数九四

0517

七二二	汽缶弁負三直配置 令下下右接直當直
七三〇	鉄厨汽圧力二五五倍
七四四	田転教九。
七四五	田転教九百
七四七	田転教九。
一〇三〇	各缶順次肥水ヲ始ム
二二三〇	汽缶部共右舷車下交代シ
〇三三〇	田転教八五
〇三九九	田転教八〇
〇三三〇	田転教一〇
〇三八	鉄厨
一	其ノ位置ニ對シテ
一四三	右舷船中ノ處ニ故舷見

一四四	氣ヲ付ケ
一四八	漸次速カク増ス
一五〇	回轉教ハ。
一五一	回轉教ハ。
	液部水圧前使用始ム
一五二	回轉教九。
一五三	回轉教九。
二〇七	右軸對開
二〇九	對開開始
二一五	中室液部硝筒下未ル
二二〇	清水唧筒ノ液部水圧函送水
二二五	酸揮上番炭庫中ス
二三二	清水唧筒ノ止ム

二四。送風機回転教二七。

敵陣機園官事務室（軍中）

二四三 前機橋より味方大捷利通知あり

二四七 煙突ヲ調至大ナル損害ヲ唯ニ三彈孔ノ少ク通風影響甚大

二五一 戦闘毎開始敵旗艦ヲ見シ火災起ス

三〇〇 左舷戦闘

三〇五 右舷敵艦トシ

対岸三艦隊ハ今敵ノ巡洋艦隊向テ猛進シツテ

三〇七 回転教一〇

三〇八 回転教一〇

戦闘時汽力ヲ三八・傍トス

三一〇 回転教一一

送風機回転教ヲ三〇トス

海軍

三一二 後備給水、之、溢水、	三二一 暫時左舷各曲輪、海水ヲ漂、	三二五 前機橋、ヲ、機隊、方、歳、通知、	三二九 回輪教、	送風機回輪教、	汽圧過昇、安全弁、噴汽、送風機、回輪、後、汽圧、前、機、隊、	三三〇 汽機部員右舷、	左舷側、	三三六 回輪教、	三三七 回輪教、	三四五 敵艦、	三五八 敵機、	沈没、
----------------	-------------------	----------------------	----------	---------	--------------------------------	-------------	------	----------	----------	---------	---------	-----

四一五	敵彈一香炭庫 命中
四二五	敵機沈没
四三五	敵艦一隻沈没
四四五	田島教一〇〇
四四〇	田島教九〇
五〇二	右舷銃開火 ヲ付テ
五〇九	七番ターレットに敵弾命中 浸水
五四二	左舷小銃台置換木計硝子管破損
	敵艦大炎ヲ起ス
五五〇	三五四三番炭庫排水弁閉 浸水、有島ヲ捕 獲シテ浸水
	急カ
五五一	敵機沈没
七一三	敵一香炭大炎

0522

七三。敵戰艦沈没

七五五 休憩 食事用意

七五八 夜中十五節 速力三ノ敵艦追撃ヲ続行ス

八〇〇 三直砲置換ス

八一八 水雷艇防護

九四五 鷹布支橋 右舷次犯水三時先西回之ヲ行

二〇〇 左舷中込筒 油嘴八分之二 煙ノ管ヲ五分同注油

廿八日

引鏡由轉九方速力十五節ヲ続行

三〇〇 左舷回轉計 齒車軸欠損 為ノ勵作ヲ止ム

五二二 回轉教九

五二五 回轉教八三

七四。戦艦三直砲置換ス

七、五己漸次速力ヲ増シテ十五節トナス

回轉教丸。

休憩

八〇〇 回轉教丸

九〇ニ液部水圧機ヲ止ム

九一二液部水圧機母ヲ起働

九二五汽缶蒸気掃除着手ス前出室ヲ止ム

九五ニ氣ヲ付ク

一〇二七 敵戦艦四隻巡洋艦一隻二百米突距離出現ル

右舷野戦

一〇四〇 戦艦四隻

一〇四七 敵艦降伏

一〇五三 回轉教丸。

一〇五七	回轉教ハ五
一一〇〇	回轉教ハ。
	敬謹降伏、捕獲、平傳、 速カ、出、知、 速カ、出、知、 速カ、出、知、
一一〇四	回轉教セウ
一一一〇	回轉教セ。
一一二二	回轉教四四
一一二五	回轉教三五
一一二七	回轉教、同ク
一一三二	回轉教、同ク
一一三三	回轉教、同ク
	三直、 三直、 三直、
一一五五	回轉教、同ク

0525

機關^機之關元部^ノ敵彈ノ破損ニ箇所

破損ノ箇所

破損ノ有様

右舷機室前部通風筒

直径約一吋半、穿孔一個

右舷機室後部通風筒

直径約一吋、穿孔二個、約八吋、穿孔一個、約七吋、穴損一個

左舷機室後部通風筒

直径約一吋、十吋、指田形、穿孔一個

右舷機室前部^ノ子棒

前部艦橋下、於て屈曲破損

右舷機室前部艦橋^ノ通風管

前部艦橋司令塔^ノ側部、於て約一吋半破損

左舷機室前部^ノ機室^ノ事務室^ノ壁^ノ破損

事務室内、於て全破損

0526

軍艦三笠日本海に戦ふに破損せし箇所調査表

汽罐の部

破損箇所	損害ノ状況
前艦室右舷通風筒右側壁	敵弾ノ為メ十号所破綻
一番及二番着炭庫通風筒	敵弾ニテ管壁破損
中艦室前部右舷通風筒	敵弾ニテ管壁破損後裝取用物ヲ毀傷
前部煙突	敵弾ニテ直徑一呎以上ノ破綻七ヶ所全ク一呎以下ノ破綻一ヶ所
前部煙突圍	敵弾ノ為メ大破孔ニテ
後部煙突	敵弾ニテ直徑一呎以上ノ破綻一ヶ所全ク一呎以下ノ破綻一ヶ所
前艦室上甲板昇降口後部側壁	敵弾ニテ三ヶ所破孔ヲ生ズ
前艦室右舷機滑頭ノ導水	敵弾ノ為メ破損
嘴汽筒	

十五番炭庫外圍鋼板	十二吋敵彈多破孔ヲ生ズ
右炭庫内番下木止り	敵彈多折斷
廿番炭庫通風管	敵彈多庫内ノ管端破損
廿番炭庫外圍鋼板	十二吋敵彈多破孔ヲ生ズ
廿番炭庫上九番炭庫内壁	敵彈多船外ノ接合部破損
廿番炭庫内梁	左右
廿番炭庫天井壁	敵彈炸裂多破損
十番炭庫和上り半積入口	敵彈多破損
前後煙突敷索八本	敵彈多切斷或ニ部損著
左舷側下木止り	敵彈多切斷
前後煙突前後ノ蒸氣捲管	敵彈多各一個所破綻ヲ生ズ

軍艦三笠日本海に戦つて破壊された個所調査表

補綴部

區劃接線櫃

貳個

上甲板右舷兵員測計の1及2

敵弾爆発により破壊された

分電路櫃

壹個

左

測計の1及2

移動白熱電燈接線櫃

壹個

上甲板前部右舷

電路接線櫃

壹個

左

測計

燈櫃

ブラケット下用

貳個

左舷兵員測計個、潜水庫7個、掌砲科器具庫7個

全

ペンダント燈用

壹個

左

上甲板2個、菓前室1個

移動白熱電燈

接線櫃

貳個

菓前室

全

手提用

壹個

上甲板3番口より上止内

電路接線櫃

壹個

左

白熱電燈用

5個

震動局及び墜落口夫

船内燈接線室外用

貳個

右

後甲板右舷

敵弾命中時全砲震動により飛散した

白熱電燈電線	炸所	敵彈爆発為、破壊切斷
室内電機送風機	炸所	下中板微治、隙所、備作中 負傷者、為、墜、落、破損
分電箱内導線用漏器	炸所	震動、多、破壊
斯式信号燈用電線	炸所	敵彈爆発為、切斷
艦尾速勢船信号燈用電線	炸所	全
警戒燈用電線	炸所	全
航海燈用電線	炸所	全
消毒機取付基座	炸所	敵彈為、破壊転倒
全用排汽管	炸所	全、破壊裂、罅
揚艇機齒車	炸所	全、凹形、損傷、毛、使用上、差支、也
前部補機室送氣筒	炸所	中、中、板、炸、了 敵、彈、片、貫、通
葦草電機送風機給氣筒	炸所	上、中、板、炸、了 敵、彈、爆、発、為、破壊、粉、碎
暖爐汽管	炸所	手、柄、亦、炸、了 全、破壊

0531

汽罐部應急修理

左舷のサレシ蒸氣管

戦時中左舷の送汽管に於ては、以て彈片の飛散に爲る
左舷蒸氣管の破損を以て、翌日蒸氣が噴出せしむ大負荷所上部
に蒸氣を塞止する爲に、流水階の閉鎖をせしむ

一部部烟突の破損を蒙る、翌日直徑一呎以上の彈痕を以て其
數九個所之を以て、以下彈痕を加へ、其數實に廿六、連入彈痕
一最大は、左舷約五呎、右舷約五呎、位置高き爲に、到底戦時中

少數の應急修理を以て修理を加へ、事能からず中央以下、
左舷の大丸彈痕は、帆布を補修するに、揮擲し或は薄く鉄板を以て
之を塞ぐ、又前部安全弁蒸氣管の破損は、帆布を以て之を塞ぐ

後部煙突の被害比較的僅少なを以て、本艦中央部、敵彈三個、中
部裂片左舷を貫通するに、位置高き爲に、應急修理

ヲ加フル能ハザリキ

以上煙突對スル應急修理完全行フ事能クモ其大上ノ
困難ヲ認ムス汽釀整々常ニ定ノ圧力ヲ保持シ戰時速力
對シ充分ノ餘裕ヲホサリ

二十五番炭庫廿二番炭庫六吋甲鉄板、庫中モ十二吋敵彈ハ
左甲鉄ヲ貫通シテ右舷ニ破孔ヲ生ズ其位置殆ド中甲板モ
波浪高キガ潮水ヲ侵入夥シ依テ應急ニ彈痕塞栓ヲ用
ヒテ侵入ヲ防ガント試ミシモ波浪ノおノ到底ニテ止ル能ハズ
依テ專テ製作シテ防水板(Steel Plate)ニ對シテ數個ニ分テ
之(二)枚ヲ甲鉄板ノ外方、彈痕外周ニ支持セテ内部ニ防水板
固定用木片(Wood Block)ニテ全ク數個螺釘孔ヲ有ス二個ヲ
甲鉄脊破板、破孔外周ニ保持シ此ニ板ヲ螺釘ヲ緊定シ其
間ニ毛布、釣床、布團等ヲ挿填ス更ニ水密ヲ嚴重ニセガホ

0533

木製樑敷個ヲ固定本片ノ間ニ打込テ別用参照
十卷出度庫ノ應急修理モ亦廿一番ニ全シ

0534

應急修理

補機部

一 電路接線筥及電線破断箇所

一 前艦橋諸器具用白熱電燈、警戒燈、速力燈、斯式信号燈

信号燈、中下甲板白熱電燈、電路、敵彈、為破損、以テ應

急ノ接線ヲナレ以テ辛シテ其燈ハ差支テカラレム

一 左舷モリナリ一回転計元軸

左軸回シレ主機回転速ヲ為シ、戰鬥中破損、取外スレテ新製ノ

モノヲ取付ク

一 後部砲塔後部転送管支柱

戰鬥中破損、以テ應急修理ヲセシモ到底竣工ヲ得ガリシ

重丸需品ノ消耗量

時別	品名	石炭	内部油	外部油	糸屑
廿日	至八時	一五二〇	七	一八一	三五
左	至八時	三五三六	二一	四五〇	三五
干后	至四時	三六七三	八	七三〇	三五
左	至四時	三四六四	六九	七七三	三五
左	至八時	三五七六	一八	五六〇	三五
廿八日	至四時	三五五九	四七	六三九	三五
左	至四時	二九八四	二八	五七三	二五
左	至八時	三三六八	九	八七〇	五〇
右	計	二五六八	三六	四七六六	二八五

備考

内部潤滑油兩楯機ニ視端注油器ヲ用テ三時間一滴ノ割合

送入レ(一)の漏れ(一)律(相違)且ツ左舷中圧管(一)毎直三回油嘴ヲ
ハ全廻リ啓キテ其間ツ注シタル過ヤ不其他内部油(一)吸錐棒(一)滑
車(一)如キ外部潤滑(一)使用ヲ就中右舷中圧吸錐棒(一)噴汽(一)見
テ以テ該棒(一)塗抹(一)油量比較的(一)多クシテ以テ右表(一)如キ数量(一)
示ス

0539

戦闘終了後の兵器消耗

品名	種類	種類	消耗額
一 白熱電燈	ス式十六燐力 八十ボルト	ス式十六燐力 八十ボルト	八拾個
一 全	ス式十六燐力 八十ボルト	ス式十六燐力 八十ボルト	七個
一 西履硝子	成		八個
一 安全鎔解線	各	各	三百瓦
一 白熱電燈線	各	各	四十米突

0540

機械室員功績

機械室員は青芒日午前五時十分至急運転準備令下りテヨリ同日及翌共日、戰鬥ヲ經テ廿日午前十時S地点ニ到着ス迄主機械、操縦ニ從事シ、故障ヲ起サシメザルノミナラス終始克ク其最良状態ニ維持シ主機械、効力ヲ充分發揮シ得テ此遺憾ナラシメタリ

此好結果ヲ得ル所以モ、ハ素ク右行動中機械室各員が熟識其職、努力、機關取扱ニ關ス注意一層周到ナルニ由ト云ヒ平素機關、保存手入ニ深ク思慮ヲ盡シ一朝令アラハ直ニ全力運転ニ支障ナラシメントテ期セシ。職由セズンハアラス殊ニ波島の艦隊が四月八日「ラッカ」海峡ヲ通過セシ以來ハ常ニ至急出港ニ應セカ為、其取付ケ、時間ヲ要スモノハ取

海軍

外し検査手入ヲ為ス得ザラシテ之は由部状態ヲ観察シテ
其良態ヲ維持セシメ為ノ頗る思慮ヲ要セシモノナリ機械室員ハ
克ク此間ニ処シテ敵艦隊近ツト共ニ其ノ技能愈々益々精緻
ヲ極メ以テ今回ノ大好果ヲ得タルモノナリト信ス

汽機部負之功績

根據地、碓泊中、不飽汽機ノ掃除ヲ入テ施行シ、戦闘、臨テ
遺憾ナリ、全カヲ發生セシメテ、努力ノ今、用、戦闘中、長時間空
クニ、焚大室、於テ、炎熱、ノ、輻射、ノ、浴、ニ、於、テ、炭、ノ、呼、吸、シ、セ、ル、時、間、ノ
間、ニ、直、或、三、直、配、置、セ、テ、極、テ、靜、肅、ニ、焚、大、汽、機、ノ、從、事、シ、
秩序整然トシテ混雜ヲ拒、事ナリ、唯、沈、黙、然、ル、通、風、音、鼻、突、
ク、焚、大、作、業、ノ、事、ヲ、聞、ク、ニ、終、始、規、定、壓、カ、ヲ、維、持、シ、汽、力、供、
給、ヲ、テ、停、々、ト、シ、餘、裕、ヲ、シ、テ、此、方、ノ、故、障、ヲ、モ、惹、起、ス、ル、ト、ナ、カ、ラ、ズ、ト、シ、
其、功、績、偉、大、ト、シ、認、ム、按、ス、ル、ニ、焚、大、汽、機、ノ、作、業、ヲ、各、機、個、ノ、
成績ヲ、數字、的、ニ、表、示、ス、ル、能、ク、從、テ、其、優、劣、ヲ、比、較、ス、ル、由、テ、
機、ノ、殺、權、シ、テ、働、作、不、良、ノ、キ、ヤ、シ、カ、働、作、良、好、ト、シ、餘、ノ、汽、機、ノ、
成績ヲ、破、壞、ス、ル、事、ト、ス、今、用、成績、ノ、畢、竟、各、機、ノ、焚、大、負、協、
力、一、致、ト、シ、遺、憾、ナ、リ、其、全、カ、ヲ、盡、揮、ス、ル、疑、ノ、可、キ、事、ナ、リ、ト、ス、

六番分隊員ノ功績

一補機員 各補機室ニ通風不良熱氣ヲ以テ満タシ殊ニ夜

電機室ノ如キ百千度以上ノ温度ニ達スル其中ニ於テ能ク長時間ノ

戦闘中各其衛ニ機械ニ一故障ナカラシメタリ

二前部防大隊 前部防大隊員ニ敵彈十五番及廿番炭庫ノ

外側ヲ破リ破裂スル彈孔水準線以上ニモ波高キ爲メ浸水スル皆

挺身急ニ應ジ咄嗟ノ間防水具ヲ運ビ吸イテ已メ看セル事業服

帶裨ヲ脱シテ浸水ヲ防キ働ク敏捷能ク彈孔ヲ防塞シ尚防具ヲ

改テ再ニ及スル其他附近ノ取片付等迅速其事業ヲ全クセリ

三後部防大隊 後部防大隊員ニ敵彈ノ機関長至及機関停事

務室ヲ破壊スル彈孔水準線以上ニモ波高キ爲メ浸水スル隊員

皆迅速急ニ應ジ防具ヲ換ジテ他ニ代テ遂ニ彈孔ヲ防塞シ能ク浸

水ヲ防グ

電線掛 電線掛負各機室中下甲板機室より戦

闘中右其配置附近起ル激轟依リ起ル鎗解錠切断取替

電路修理電燈取付等に従事し戦闘後専ら航海其他必要

之電路電燈ノ應急修理ヲ行フ

兵器修理負 兵器修理負、戦闘中及戦闘後従事し修理、

箇所ヲ存スル

下部煙突ノレシテ敵弾ヲ破壊部

下部十二平揚弾機

左舷機室より「回轉計」元軸

六寸十番砲尾栓固着セシメノ開放

六寸八番砲尾栓

後部砲塔内転卸管支柱

二前部砲塔伝送管

此等ノ事業ハ廿七日午後ヨリ廿八日ニ亘リ殆ト就寝休息暇ナク

熱心其修理ニ従事シ能ク應急ニ遂成シタリ

ハ應急修理員 應急修理員ノ戦闘中及戦闘後ニ従事ス

事業左ノ如シ 一汽笛通電管破損個所

一煙筒ケーブル破損個所

一前後部煙筒破損個所七ヶ所

一前後部煙筒ノステー切斷ヶ所

一廿二番炭庫破損個所

一七番ケーブルト内破損個所

一伝送管破損個所

一前部主及中機室通電管破損個所

一後部艦橋ヲ先任衛兵伍長首ニ通電伝送管破損個所

一 中甲板第四區、於予清水管破損箇所
各適當に應急手段を以て迅速に修理せしむ

0549

機関部^{一般}情況

戰時中汽機汽缶補機何と屬作田滑と此少故障
之生去亦各部詳細至之以下順之是之記之矣如レ

海軍

0550